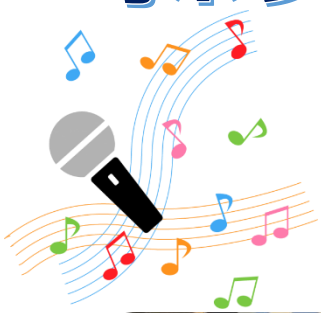
「司ボランティア」一人の歌謡ショー



８月２７日（水）司ボランティアこと薄井静雄さんが家族の家ひまわり大田原を訪問し、一人の歌謡ショーを行いました。薄井さんは、多くの高齢者施設等を訪問し、自前のカラオケ機材を持ち込んで昔懐かしい曲を披露しています。コロナ禍前は、年間１００回以上もの活動を行っていました。

まず始めに「皆さんも一緒に歌ってください。私より上手く歌わないでくださいね」とユーモアを交えた挨拶をすると、１曲目は「男船」を披露しました。自己紹介では「定年退職後から司ボランティアの活動を始め、まだまだ若い７５歳」と話しました。歌謡ショーが始まると、手拍子を打ったり、歌を口ずさんだり、体を動かしてリズムをとったり、顔を見合わせて「上手いねぇ」と話す姿などが見られました。

薄井さんがどこに行っても必ず歌うという「お母さん」では、母を想って作ったオリジナルのセリフも入れ、心を込めて歌いました。この日は全部で９曲披露し、最後は「およね～、およね～」と呼ぶと、施設の職員が登場し、デュエットソングの「麦畑」を披露しました。

皆さんそれぞれ昔を思い出しながら「司ボランティアの一人の歌謡ショー」を楽しまれた様子でした。

那須塩原市社会福祉協議会　ボランティアセンター

令和７年８月作成